

元・気・に・な・る・情・報・誌
よみつこ

月刊

Yomi

NARA + YAMASHIRO + IGA



yomiっこ
クーポン付
41店

11

Vol.251
NOVEMBER 2022

正

倉

院

展

第74回

令和4年10月29日(土) ~ 11月14日(月) 全17日間



聖地巡礼
NARA

日本の食のルーツ・DNAは奈良にあり



お酒の楽しめる
お店が満載!

前売日時指定券のみ
当日券の販売はなし

終活シリーズ 第27弾

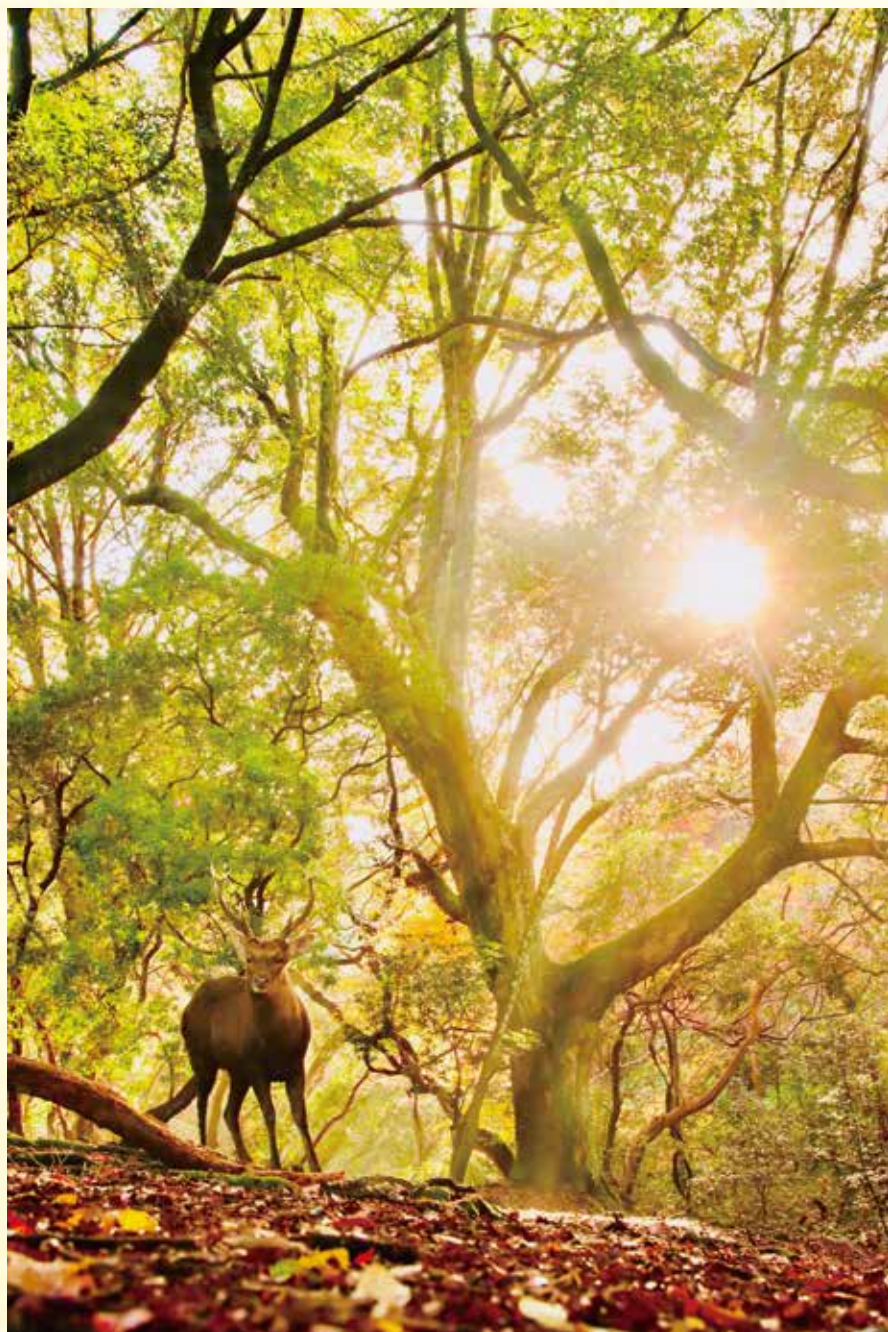
もしも **突然喪主** になったら

自然と暮らす スマイル葛城農業 / 石井 悠勢さん

新日本妖怪紀行 駅チカに名所あり「役小角誕生の地」

BOZE数珠つなぎ 當麻寺中之坊 / 松村 實恵 師

2022円の旅 霜月の御所まちをひたすら食べ歩く **伊賀もん** イディール / 久保 慎太郎さん



「とっておきの秋景色」

撮影場所／奈良公園（奈良市）

📷 撮影者：山本敏則さん

秋の早朝、奈良公園の奥に一步足を踏み込むと、赤や黄色に染まった杜^{もり}が広がっています。日が昇ると大きな角鹿が現れ、眩^{まぶ}しいほどの日が杜と鹿を照らし出しています。

目次フォト 大募集！

yomiっこ「巻頭ページ」にあなたの写真を掲載!!

奈良の風景や伝統行事、イベントなど、あなたのお気に入りの写真を毎月募集します。

1月を感じられる1枚を募集 締め切り:11月15日

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④写真のタイトル ⑤説明文 ⑥撮影地を明記の上、画像をメール (info@ynl.co.jp) に送付ください。

*応募作品の中から編集部での審査の上、掲載を決定します。
Instagram「#ならっこぐらし」でも応募できます。



永代供養墓

生前予約
できます

位牌壇 納骨・送付
宗派不問
檀家なし

光明山
みねのてら 阿弥陀寺

☎0742-45-2410

〒631-0027 奈良市学園赤松町2826-1
みねのてら阿弥陀寺 検査

LINEスタンプ発売中!

●ほんわかスタンプ

●ビジネススタンプ

yomiっこ

2022.11月号 vol.251

本誌掲載内容は10月6日現在の情報です。
「新型コロナウイルス感染症」の影響で、店舗の営業時間やイベント等の開催が変更になる場合があります。詳細は直接ご確認ください。

04 第74回 正倉院展

08 日本の食の 聖地巡礼NARA



34 終活シリーズ もしも突然喪主になったら

45 毎月使ってね! yomiっこクーポン!



SHOP

33...SHOP☆SHOP

MAN

02...自然と暮らす スマイル葛城農業／石井悠勢さん

18...BOZE数珠つなぎ 當麻寺中之坊／松村實恵 師

REGULARS 連載記事

16...西の京病院

17...トドの毒舌

20...新日本妖怪紀行

22...タウンニュース

24...スポーツ大好き

「朝和イーグルス」 「F.C.United Nara」

26...読者のお便りFREE TALK&ちさとの星占い

28...クロスワードパズル&まめちしき

29...インフォメーション

「MUSEUM」 「ART」 「PLAY」 「EVENT」

38...2022円の旅 霜月の御所まちをひたすら食べ歩く

40...伊賀もん イディール／久保慎太郎 さん

42...プレゼント

43...美しいおもてなし

44...こちら編集部



株式会社 読売奈良ライフ

<https://ynl.co.jp>



奈良の総合情報サイト **Narakko** 毎月25日デジタル
パンフレット配信!

<https://narakko.jp>

表紙写真／日本料理 おばな、日本料理 かがりや

本誌で掲載している価格表示は、原則的に税込みです(特に明示あるものを除く)

「タウンニュース」10月号で
紹介の大和ルージュも！



太田の畑ではトウモロコシとナスを栽培（9月中旬取材）



山田の無人直売所。
朝採れの新鮮な野菜が100円から買える



秋にはサツマイモやブロッコリー、冬には大根や白菜などを育てている。どれも立派！



おいしい新鮮野菜でみんなを笑顔に！
“若手の星”を目指す新進気鋭の農家

自然と 暮らそう

vol.174

スマイル葛城農業
石井悠勢さん

「若手農家の星になりたいんですよ」。そう語るのは葛城市在住の石井悠勢さん。20歳で就農した新進気鋭の若手農家だ。

就農したきっかけは学生時代。「元から就職ではなく起業を考えていて、いろいろと失敗してきた中で農業に行き着きました。田舎育ちで自然に触れることも野菜も好きでしたし、コロナ禍で飲食店でのアルバイトもなくなり時間ができた時に飲食店のオーナーから「野菜を作ってくれたら買うよ」と言われたこともあって思い切って決断しました」

しかし大学で農業の勉強をしていた訳ではないため全くの無知識。地元の農園や近隣の農家に飛び込みで教えを乞いに行き、一から農業について学んだ。そして大学2回生の冬、市内にあった農地を借り受けて農家ライフをスタートさせた。5坪ほどの小さな畑で初めて作ったのは大根などの冬野菜。「自分で作ったものを“おいしい”と喜んでももらえたり、売れてお金になったりしたことがうれしかった

あるのですが、交付要件を満たせず自己資金ゼロの状態から始めることになってしまいました」。石井さんは朝に畑で仕事をした後、夜勤のアルバイトで稼ぐというハードワークの日々を過ごし、どうにか資金を確保し持ちこたえた。

また農地はほとんどが長年手つかずだった耕作放棄地。自ら再開墾することを条件に無償で借り受けている。中には10年以上放置されていた土地もあるが、土壌改良効果に優れる馬糞を多く含めた肥料を使い栽培可能な状態まで改良した。「なんとか栽培できるようにはなりましたが、長期間放置されてきた結果、雑草の生命力も強く、引き続き改良していく必要があります」

現在、栽培する野菜はトウモロコシやブロッコリーを中心に季節野菜などを栽培する。新鮮な山の水を栽培に使えるのは葛城山麓にある農地だからこそ。農薬の使用回数を減らした減農栽培を行うことで、安心で安全な野菜の提供を心がけている。

野菜は同市山田にある事務所前で直売するほか市内の道の駅などでも販売。飲食店への販路も獲得した。就農3年目となる本年8月には一般社団法人「スマイル」を立ち上げ、学生時代の目標である「起業」も達成。「農業に挑戦し、おいしい野菜を作って、売って収益を出す。それを自分自身が成功させていくことで、僕

たです」。その喜びから葛城市内の数か所に農地を借り受け、規模は現在2.5畝にまで拡大。「どんどん借りていくうちにうちは引けない広さになってしまいました。今は人手もないのでこれ以上は見きれませんが」と石井さんは笑う。基本は石井さん一人で畑を見ることが多いが、学生時代の友達が休みの日などに手伝いに来てくれることもあるという。

一方で就農時には課題もあった。「新規就農にあたって補助金ももらえる制度が



と同じような若い方に農業が“楽しい”仕事だというイメージを持ってもらいたい。そうして若者の新規就農者が増えていけばうれしいです」。2010年以降、毎年10〜50万人ほど減少している就農人口。若手農家の星は、国内農業界の「希望の星」となるか。石井さんの挑戦は続く。



スマイル葛城農業（直売所）
葛城市山田123-2（ROUTE88内）
9：00頃～17：00頃 ※作業状況により変動あり
休・なし P・あり
TEL.0745-44-8444
<https://www.smile-katsuraginogyo.com/>



Instagram

ISHII YUSEI

1999年、葛城市生まれ。23歳。起業を考える中で農業と出会い、天理大学在学中に就農。現在は市内に点在する約2.5haの耕作放棄地を再開墾しトウモロコシやブロッコリーを中心に野菜を栽培。本年8月に一般社団法人を立ち上げ、道の駅や直売所での販売も行う。



続きは電子書籍で見てね



Rakuten ブックス